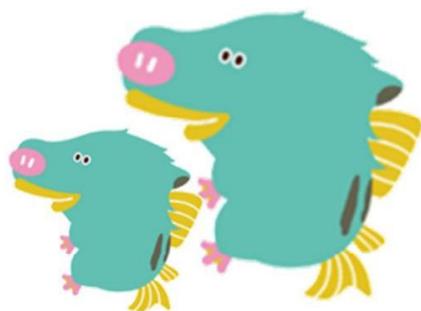


資料2



矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ  
「はぎぼう」

# 第17回 山部会まとめの会

## 今期の振り返りと来期の活動目標



# 1. 矢作川流域圏懇談会とは

## 【懇談会の目的・運営方針】

### 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

### 懇談会の運営方針

#### (1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体の勉強会やイベントの計画を行う。

#### (2) 流域の課題解決に向けて具体的な行動を積極的に行う

- 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流を実施する。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

#### (3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【第15期の活動目標】

<テーマ>

①流域圏担い手  
づくり事例集

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「**流域圏担い手づくり事例集VI**」を刊行する。⇒流域圏担い手づくり事例集VI- I を刊行
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。  
⇒取材対象は流域圏全体としている
- 川部会、海部会を巻き込んだ**流域全体の担い手を発掘**する活動とする。  
⇒流域全体を対象として事例集を刊行
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。  
⇒第16期に事例集VI- II を刊行予定
- **事例集交流会を開催**する。  
⇒第16期に事例集VI- I とVI- II を含めて同時開催

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 流域圏担い手づくり事例集（テーマ①）

#### ○流域圏担い手づくり事例集VI-1の刊行

2024年12月17日に開催した公開講座では、「流域総合水管理」の考え方を分かりやすく紹介しつつ、地域共創流域治水に精通する蔵治氏、萱場氏とネイチャーポジティブに精通する森氏に鼎談していただいた。将来、地域の安全や安心を地域住民が主体的に実施するために、会場を含めて意見交換した。

公開講座の内容を文字起こしする形で、「流域圏担い手づくり事例集VI-I」を刊行した。既に1,000部発行しており、多くの方に手に取っていただき、事例集を広めることができた。

来期には「流域圏担い手づくり事例集VI-II」の刊行を予定しており、持続可能な流域づくりに関わる人々の活動を中心に取材を予定している。

次頁に公開講座で登壇し、話題提供していただいた方の内容を示す。



蔵治氏（東京大学教授）



萱場氏（名古屋工業大学教授）



森氏  
（土木研究所自然共生研究センター長）



鼎談の様子

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 流域圏担い手づくり事例集（テーマ①）

#### 蔵治光一郎氏 （東京大学教授）

地域共創流域治水プロジェクトにおいて森林の専門家として参画し、**木材生産と治水の両立**を目指す研究を行っている。市町村単位の森づくり構想や濁水カルテの作成、架線系集材機械の普及、森林認証制度の推進などを行っている。

#### 萱場祐一氏 （名古屋工業大学教授）

球磨川流域では、地域住民の安全と環境を守るため、**雨庭や多自然川づくりなど自然を活かした治水対策**が進められている。多自然川づくりでは洪水の勢いを緩和し、下流への負荷を軽減させ、洪水波形を緩和する効果があり、ワンドやリーキーダムを導入で流量低減を図る。

#### 森照貴氏 （土木研究所自然共生研究センター長）

ネイチャーポジティブは国際的な環境目標として定着し、日本でも国家戦略に組み込まれている。淡水魚の絶滅危惧種増加等を背景に、従来の環境に配慮する「多自然川づくり」から、**保全と創出を目的とした「回復型川づくり」**への転換が必要だと提言している。



## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【第15期の活動目標】

<テーマ>

③森づくり  
ガイドライン

<活動目標>

⇒：今期の実績

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策などの国の新たな動きを踏まえつつ、**流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。**  
⇒豊田市森づくり委員会の内容を情報共有
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における**関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップ**する。⇒「流域総合水管理」に関する情報共有
- 流域市村の**間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理**し、要因等の情報共有を行っていく。⇒R6年度の間伐・皆伐面積を整理し情報共有

## 2. 今期の活動実績 (R6.12.1~R7.11.30)

### 森づくりガイドライン (テーマ③)

#### ○流域総合水管理に関する情報共有

国土交通省が発表した「流域総合水管理のあり方について」の答申の中で紹介されている流域総合水管理の定義や相乗効果・利益相反の調整の事例について情報を共有した。

また、「流域総合水管理」の具体的な取組内容として、矢作川流域圏懇談会の活動が取り上げられていることを紹介した。

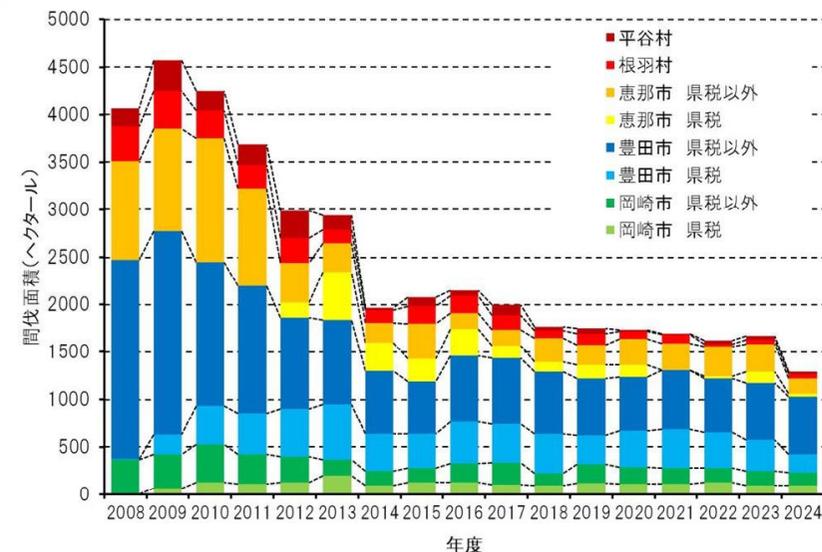
#### ○令和7年度 第1回とよた森づくり委員会の情報共有

豊田市は、皆伐再造林に対して促進せず、民間主導での実施を推奨している。蔵治氏からの意見として、シカの食害の対策にコストがかかるため、再造林が難しいことや、一方で、間伐されず巨木化することによる風倒被害の懸念が挙がった。他にも豊田市森づくり条例の改正等の話題提供があった。

#### ○矢作川流域圏での人工林間伐の状況

2009年から2014年の間に大きく減少しており、それ以降は2000ha前後で横ばい傾向である。

近年の間伐面積は、ほぼ横ばいであったが、今年(2024年)は恵那市と豊田市が減少し、流域全体で1500haを下回る結果となった。



## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【第15期の活動目標】

<テーマ>

<活動目標>

⇒：今期の実績

④木づかい  
ガイドライン

- 新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。  
⇒各自治体がどこを材促進しているか比較した
- 特に、どこを木材の利用を推進しているかに着目する。（市産材、県産材、国産材等）  
⇒各自治体がどこを木材を推進しているか比較表にて整理
- 「流域産材」を各自治体に広めていくためにアピールする資料を作成する。⇒WGにて議論
- 各自治体の木材利用の担当者を整理し、関係を構築する。⇒WGにて議論
- 各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。⇒検討中
- 木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。  
⇒検討中

## 2. 今期の活動実績 (R6.12.1～R7.11.30)

### 木づかいガイドライン (テーマ④)

#### ○各自治体の流域産材の利用状況

流域産材を広めるために、矢作川流域圏内の自治体の現状の木材利用の方針を比較し、どこの木材を推進しているか比較した。安城市では、長野県下伊那郡根羽村産材や、自治体間交流を行っている地域産材と記載があった。その他の山が無い自治体では、主に県産材が活用されている記載があった。また、森林のない自治体に対して流域産材の活用を広める手法について議論した。

市町村名	市町村産材	県産材	地域材	流域材	国産材	水源材	輸入木材	その他	重要な記載
みよし市			◎		○	◎			・国産材 ・特に地域材（県内又は市の水源地域で伐採された木材）
安城市		◎	◎					◎	・長野県下伊那郡根羽村産材 ・その他自治体間交流を行っている地域産材および県産材
岡崎市	◎	○1			○2		○3		・市産材 ・市産材の入手が困難な場合は、県産材・国産材・輸入木材の順位で使う
刈谷市		◎							・県産木材（詳しい記載はなし）
恵那市		◎							・岐阜県産木材
新城市		◎	○1		○2				・原則県産材を使用、木材の産地による特徴や性質の違いを考慮した地域材、県産材の使用が困難な場合における国産材 ・1. 県産材2. 地域材3. 国産材
瑞浪市		◎							・岐阜県産木材
西尾市		◎	◎		◎				・県産木材、地域材（近隣県で生産された木材）、国産材
設楽町	◎	◎	◎		○				・地域材（設楽町産材）県産木材 ・入手が困難な場合、国産材
知立市		◎	◎		○	◎			・積極的に国産材を利用 ・特に地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先
半田市		◎	○		○	◎			・原則、国産材を利用 ・地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先するが、特に県産木材を優先
武豊町		◎	◎		○	◎			・原則、国産材を利用 ・特に地域材（県内または市の水源地域で伐採された木材）を優先
碧南市		◎							・県産木材（詳しい記載はなし）
豊田市	◎	○2		○1	○3				・原則、豊田市産材 ・流域産材、県産材、国産材の順位で利用
高浜市									・記載なし
幸田町		◎			○				・原則、国産材 ・特に県産材が利用できる場合は優先
根羽村	◎								・原則、村産材
平谷村		◎							・県産材の使用に努める

※○1>○2>○3の順に優先順位が高い

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### フィールドワーク（2025年2月 岡崎市東河原町 天使の森プロジェクト）

最大寒波の大雪の中、岡崎の最も東端に位置するトウナイドコで実施している「天使の森プロジェクト」を視察しました。プロジェクトの概要や取り組み内容について説明していただきました。

#### ○ 天使の森プロジェクトの概要

「天使の森」とは誰もが天使になれる、という願いが込められており、岡崎の最東端に位置し、山頂から三河湾を望むことができる場所にあります。

森から海は繋がっている、このことが想起できる貴重な場所であり、森林の再生、里山の暮らし、地域循環型社会を考え、幅広いジャンルや世代のメンバーがお互いの知恵と知識を共有し、共に課題解決に取り組んで行く場を創り、モデル事業を推進しています。

今回は、その拠点となるトウナイドコにおいて、建設中の施設（休憩所、種倉庫）や楮による紐づくりの現場を視察しました。



天使の森プロジェクトの拠点



建設中の種倉庫



楮による紐づくりの現場

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### フィールドワーク（2025年7月 豊田市旭八幡町・押井町 つくらッセル、押井普賢院）

廃校となった小学校の校舎を活用した「つくらッセル」の場の在り方と成り立ちについて説明していただきました。  
また、「押井町普賢院」では暮らしの場としての山村を次世代につなぐ「自給家族 & Open Common」の取り組みについて説明していただきました。

#### ○ つくらッセルの視察

つくらッセルは、廃校となった築羽小学校の校舎を活用し、多くの人がつながり、つどい、はたらき、つくる場所となっています。地域住民のチーム崩壊といった困難を経験しながらも、人々との関わりを大切に、多くの事業を創造してきました。

今回は、戸田氏のつくらッセルについて説明していただいた後、施設内の様子を視察しました。



施設内の視察



つくらッセルの説明

#### ○ 押井町普賢院の視察

押井町普賢院にて、消費者と生産者が3～10年のお米の長期栽培契約を結び、共に豊かになることを目指す「自給家族」という取り組みを説明していただきました。2020年産から始まった自給家族は、2025年産では、330家族まで広がっております。また、過疎化などにより、管理が行き届かない森林や農地を、集落住民とそこに価値を見出す人々がつながり、全員で決めたルールの下で適切に管理しながら活用する「Open Common」という取り組みも説明していただきました。

今回は、鈴木氏に押井の里の取り組みを説明していただいた後、押井町普賢院周辺の森林施業の様子を視察しました。



押井の里の説明

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### フィールドワーク（2025年9月 平谷村高嶺 皆伐事業の視察）

平谷村高嶺のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。平谷村における皆伐事業の実情や、当該現場の事業内容、架線集材システムについて説明していただきました。

#### ○ 平谷村高嶺の皆伐事業の視察

今回のフィールドワークでは、林齢60年のカラマツ皆伐事業の現場を視察しました。現場では既に作業道が整備され、集材の準備が進められていました。

当該現場の集材方法は、システムラジコンを使用し、荷掛け、搬送、荷卸しを安全な場所から無線操作を可能にした架線集材システムが用いられています。従来の集材方法は、作業員を集材機の周囲に配置する必要があることから、危険であり、実際に事故が発生することもありました。そのため、**作業効率と作業安全性が高い集材方法として、架線集材システム**を用いています。

林業従事者の減少などが原因で、集材機を操作する技術力が衰退する事態になりました。そこで、平谷村の協力のもと、**当該現場で技術力の向上を目指し、架線集材システムを活用した皆伐事業を実施**することとなりました。

今回、佐々木氏に現場状況や、集材方法の詳細を説明していただきながら、技術力の伝承に関わる貴重な現場を視察しました。



事業内容の説明



集材システムで使用する機械



伐採後の樹木の様子

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【今期の活動】

第15期の山部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	内容・場所
第15期	第71回WG・FW	令和7年 2月7日（金） ～8日（土）	<b>WG</b> 内容：テーマ別の活動報告、「天使の森」プロジェクトについて 場所：岡崎市 こもれびかん <b>FW</b> ・天使の森プロジェクト（トウナイドコ）
	第72回WG・FW	令和7年 6月27日（金） ～28日（土）	<b>WG</b> 内容：テーマ別の活動報告、カーボンニュートラルについて 場所：豊田市旭交流館 <b>FW</b> ・つくラッセル、押井町普賢院
	第73回WG・FW	令和7年 8月1日（金） ～2日（土）	<b>WG</b> 内容：テーマ別の活動報告、平谷村の概要、 平谷村の森林環境譲与税について 場所：平谷村役場 <b>FW</b> ・平谷村高嶺の皆伐事業の視察
	第17回山部会 まとめの会・FW	令和7年 10月3日（金） ～4日（土）	<b>まとめの会</b> 内容：テーマ別の活動報告、今期の振り返りと来期の目標 場所：恵那市 恵那文化センター <b>FW</b> ・リコーえなの森

### 3. 来期の山部会の活動目標

#### 【第16期の活動目標】

次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

①流域圏担い手  
づくり事例集

②山村  
ミーティング

③森づくり  
ガイドライン

④木づかい  
ガイドライン

<テーマ>

<活動目標>

①流域圏担い手  
づくり事例集

- 持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集VI」を刊行する。
- 山、川、海のエリアと都市をつなぐ活動に着目した取材や、これまで流域圏に含まれながら取り上げてこなかった団体への取材の可能性を検討する。
- 川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- 事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。
- 事例集交流会を開催する。

②山村ミーティング

- 未定のため、山部会で議論

## 3. 来期の山部会の活動目標

### 【第16期の活動目標】

<テーマ>

③森づくり  
ガイドライン

<活動目標>

- 森林経営管理法、森林環境譲与税、脱炭素社会の実現、ネイチャーポジティブ、人工林齢級分布平準化、スギ花粉症対策、流域圏のほぼ全域でみられるようになったシカの食害などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- 水環境基本法および水循環基本計画に定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。
- 流域市村の間伐面積・皆伐面積の経年変化を整理し、要因等の情報共有を行っていく。
- 「国土審議会水資源開発分科会流域総合水管理のあり方検討部会」及び「社会資本整備審議会河川分科会流域総合水管理のあり方小検討」がとりまとめた「流域総合水管理のあり方について」答申を踏まえ、「流域総合水管理の考え方を踏まえた流域圏の森づくりのあり方」について検討する。

緑字：昨期より追記した内容

## 3. 来期の山部会の活動目標

### 【第16期の活動目標】

<テーマ>

④木づかい  
ガイドライン

<活動目標>

- ~~新たな取り組みとして「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較する。~~
- ~~特に、どこの木材の利用を推進しているかに着目する。（市産材、県産材、国産材等）~~
- ~~「流域産材」を各自治体に広めていくためにアピールする資料を作成する。~~
- ~~各自治体の木材利用の担当者を整理し、官民の関係を構築する。~~
- ~~各自治体の担当者に「流域産材」をアピールする場として木づかいミーティングの企画を検討する。~~
- ~~木づかいミーティングを開催し、作成した資料を用いて「流域産材」の活用を促進する。~~
- 懇談会が中心となって流域産材を活用するためのプラットフォームを作る
- 各自治体や事業者との連携を強化するため、担当者を把握する
- 各製材所の製材・加工材の状況や得意分野を調査する
- 木材を利用する事業者が使いたい流域産材を調査する
- 豊田市や岡崎市の流域産材の活用事例の紹介
- 木材利用の好事例の紹介
- 「あいち木材利用施設事例集」に掲載されている事例を設計者に説明してもらい、FW先とし施設見学等も検討する

緑字：昨期より追記した内容

—：昨期より削除した内容